

神奈川県立平塚中等教育学校

はくろの散歩 3rd～明日に向かって～ VOL6

【国際社会で活躍する人材の育成～イングリッシュサマーワークショップの開催～】

8月19日(月)～21日(水)の3日間、1年生の希望者140名を対象にイングリッシュサマーワークショップを開催しました。本校の英語教育は、単に大学入試のために行うだけではなく、「入試に対応する」ことに加えて、「20年後に国際社会で活躍できる人材の育成」を目標に掲げ、コミュニケーション・ツールとして発信できる英語力を身に付させることをねらいとしています。そのため、特に前期課程生では、英語授業の他、かながわ次世代教養(総合的な学習の時間)のEC(英語コミュニケーション)において、ALTとのティーム・ティーチングにより「聞くこと・話すこと」等の実用的な英語力の基礎を重点的に養っています。そうした授業をさらに補完するため、ネイティブ講師を依頼し、「自分自身を英語で表現する」ことを主なねらいとして、本校創設時よりイングリッシュサマーワークショップを開催しています。今年も、生徒約10名程度に一人のネイティブ講師を配置し、英語を通じた様々な活動を行いました。参加した生徒は、ネイティブ講師からの発問に、初めは少々緊張気味に答えていましたが、2日目に入ると緊張も和らぎ、楽しそうにグループワークに取り組んでいる様子が見えられました。最終日には、各グループの代表2名が「自分自身を表現する」ことをテーマに、プレゼンテーションを行いました。ネイティブ講師のリードにより、参加した生徒全員が「聞く・話す」ことに自然と取り組んでいました。こうした様々な英語学習をきっかけとして、「聞くこと・話すこと・読むこと・書くこと」に興味・関心を膨

らませて欲しいと思います。

【教育資料より】

2019年7月23日付内外教育の表紙に、「小学校の英語教育」という表題で国立教育政策研究所名所所員の菱村幸彦氏による「ひとこと」が掲載されていました。内容を要約すると、『来年4月から小学校の英語教育が変わり、5・6年で行っている外国語活動が3・4年に下がり、5・6年では新たに英語が教科として教えられることとなります。ドイツやフランスでは、小学校1・2年から英語教育を実施しており、アジア近隣の諸国もすでに小学校から英語教育が導入されています。OECDが1971年に公表した「日本の教育施策に関する報告書」では、小学校段階からの英語教育の導入を提言しています。報告書は、冒頭で「われわれは自分たちの国に比べて、初・中段階での日本の成果がいかにかに大きいかにかに、深く印象づけられた」と日本の初中教育を高く評価しています。一方、「国際社会における日本の政治的、経済的立場は急速に重要性を増しており、小学校段階から外国語教育を能率的に行う方法を、なんとしても見つけ出さなければならない。(深代惇郎訳「日本の教育政策」)と勧告しました。50年目にしてようやく実現することとなりましたが、TOEFLの2017年のスコアを見るとアジア29カ国中、韓国11位、台湾14位、中国18位に対して、日本は26位となっています。小学校からの英語教育の充実に期待したい。』と寄せています。スコアは一つの指標として、児童生徒が興味・関心をもって取り組める英語学習であって欲しいと思います。